

Ⅲ シンポジウム記録

「ベルリンの壁崩壊30年—変わりゆくドイツの現在—」

Nach dem Mauerfall. Zur deutschen Zeitgeschichte nach 1989

挨拶と導入

冷戦時代のドイツ—4つの特徴

石田勇治（東京大学総合文化研究科教授）

基調講演

壁崩壊の後で—1989年以降のドイツ現代史

ウルリヒ・ヘルベルト（ドイツ・フライブルク大学教授）

パネル・ディスカッション

統一ドイツにおける東ドイツ独裁の検証と「過去の克服」の行方

福永美和子（大東文化大学外国語学部専任講師）

福祉国家と市民的社会参加—19世紀市民社会論の視点から—

平松英人（東京大学大学院総合文化研究科ドイツ・ヨーロッパ研究センター助教）

コメント：

ウルリヒ・ヘルベルト

石田勇治

司会：

川喜田敦子（中央大学文学部教授）

本シンポジウムは、2019年11月16日東京大学駒場キャンパスにて、東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センターの主催、ドイツ学術交流会およびドイツ連邦共和国外務省の後援で開催された。

